

IFFIm、途上国にワクチンを供給するための国際プログラムに20億米ドルを前倒しで調達

予防接種のための国際金融ファシリティ (IFFIm) は、生命を救う予防接種プログラムをGAVIアライアンスを通じて支援するために、2006年11月からの累計で20億米ドル以上を国際金融市場から調達しました。

「これは、『将来予定されている寄付金を前倒しで調達することで、予防接種プログラムの展開を加速する』というIFFImの構想が正しかったことを証明しています」とIFFImのアラン・ギレスピー理事会会長は述べています。「IFFImは開発のための強力な官民パートナーシップであり、市場ではIFFImが発行するワクチン債の人気の高まっています」

IFFImのドナー国であるフランス、イタリア、オランダ、ノルウェー、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、英国は、20年間で合計53億米ドルをIFFImに拠出することを誓約しています。IFFImは資本市場で債券を発行することにより、ドナー国政府が長期にわたって支払うことを約束している寄付金を、今すぐ利用できるのです。

IFFImの財務マネージャーは世界銀行が務めていることに加え、IFFImの財務基盤はきわめて安定していることから、IFFImが発行する債券は個人投資家にとっても機関投資家にとっても、魅力的な社会貢献度の高い投資の機会となっています。

「IFFImが調達した資金をもとに、70以上の開発途上国で予防接種プログラムに対する支出を倍増させることができました」とGAVIアライアンスのジュリアン・ロブレビット事務局長は述べています。

IFFImは2006年11月に初の大型公募債を発行し、世界中の機関投資家から10億米ドルを調達しました。2008年3月には2回目の起債を行い、日本の個人投資家から2億2300万米ドル相当の資金を調達しました。さらに2009年には最初の5カ月間で、日本と英国の個人・機関投資家から9億7200万米ドル相当の資金を調達しました。

欧州資本市場から2億6600万英国ポンドを調達

IFFImはポンド市場に進出し、個人・機関投資家から想定額の5倍にあたる2億6600万英国ポンド (約4億米ドル相当) を調達しました。

IFFImはHSBCと提携し、2009年3月にポンド市場に参入しました。当初の目標は、HSBCワクチン投資ISAとワクチン投資プランを通じて、個人投資家から最高5000万英国ポンドを調達するというものでした。

社会貢献に関心の高い投資家に照準を合わせたマーケティングキャンペーンを展開したこと、また最低購入額を1000英国ポンドに抑えたことから、この債券は英国のマスコミから大きな注目を集めました。

3月9日に行われた発表会には英国の国会議員、各国駐英大使、報道関係者のほか、官民セクターから多数のゲストが出席しました。

投資家の声に応じて、IFFImは機関投資家向けに2回目の債券 (2億5000万英国ポンド) を発行しました。主幹事はHSBCとRBSが共同で務めました。この債券には約40の投資家から募集額を30%も超える申し込みがあり、その多くは社会的貢献度の高い投資に特別な関心を寄せている投資家でした。

ローマ法王がIFFImの投資家第一号に

英国のゴードン・ブラウン首相は2月19日、IFFImの初回ワクチン債を購入したローマ法王ベネディクト16世に、感謝のしるしとして記念品を贈りました。

法王に贈られたのはメセレト・テシヨメさんと娘のブラックタイェットちゃんの写真(下参照)を収めた写真立てです。この写真はエチオピア南部のティンビチョ簡易保健所で撮影されました。



写真の説明:英国のゴードン・ブラウン首相から記念品を受け取るローマ法王ベネディクト16世

ブラックタイェットちゃんはこの日、GAVIアライアンスがIFFImの資金を使って供給した五価ワクチン(ジフテリア、百日咳、破傷風、B型肝炎、インフルエンザ菌b型(Hib)の5種混合ワクチン)の接種を受けたばかりでした。

ブラウン首相は国際金融ファシリティ(IFF)構想の発案者であり、今回の記念品はバチカンで開催された会議の冒頭でローマ法王に手渡されました。

初回ワクチン債(2006年11月発行、調達金額10億米ドル)の購入者の中には、ロックスターのボノとボブ・ゲルドフも含まれています。

オランダがIFFImの8番目のドナー国に

オランダが新たにIFFImのドナー国となることが決定しました。オランダは今後8年間にわたり、IFFImに8000万ユーロを拠出することを約束しています。オランダはIFFImに途中から参加した初めての国であり、これを機にさらに多くの国々がIFFImに参加することが期待されています。

オランダのIFFIm参加は6月3日に発表されました。IFFImには現在、オランダのほかにフランス、イタリア、ノルウェー、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、英国が参加しています。

オランダ政府は過去10年間で1億6000万ユーロ以上をGAVIに拠出するなど、これまでGAVIの活動を支援してきました。オランダにとって、IFFImを支援することには特別な意義がありました。オランダは途上国開発に民間セクターを巻き込もうとしているからです。

GAVIアライアンスのジュリアン・ロブレビット事務局長は、オランダを開発協力の先駆者と称え、次のように述べました。

「オランダはふたたびリーダーシップを発揮し、援助の有効性という課題を前進させました。オランダがIFFImに参加したことにより、GAVIはさらに多くの命を救うことができるようになるでしょう」

囲み:IFFImドナー国の誓約金額

英国	20年で1,380,000,000ポンド
フランス	20年で1,239,960,000ユーロ
イタリア	20年で473,450,000ユーロ
スペイン	20年で189,500,000ユーロ
オランダ	8年で80,000,000ユーロ
スウェーデン	15年で276,150,000スウェーデンクローネ
ノルウェー	5年で27,000,000米ドル
南アフリカ	20年で20,000,000米ドル

日本ではワクチン債の人气が継続

日本ではIFFImのワクチン債が個人投資家の間で高い人気を集めています。2009年には2回ワクチン債が売り出され、2月には大和証券を通じて4億2900万米ドル相当、5月には三菱UFJ証券を通じて1億4300万米ドル相当が調達されました。

厳しい市場環境にもかかわらず、これだけの反響が得られたことは日本の個人投資家の間で、IFFImとその人道的目的に対する支持が高まっていることを示しています。

1月の売り出しは、大和証券グループのホールセール証券会社である大和証券SMBCが担当しました。

商品説明会には大和証券グループの鈴木茂晴社長のほか、IFFImのアラン・ギレスピー理事会会長、世界銀行のケネス・レイ副総裁兼トレジャラー、GAVIアライアンスのアリス・オルブライト最高財

務責任者が出席し、200人を超える大和証券の投資家にワクチン債を紹介しました。

2時間にわたる説明会では、IFFImの資金が途上国の子ども達の予防接種にどう活用されているかを説明するために、GAVIアライアンスが制作したビデオも日本語字幕付きで上映されました。

説明会の冒頭では大和証券グループの鈴木社長が参加者に対し、IFFImの債券を取り扱うことで、自分のもとより大和証券の社員も、世界に貢献しているという感覚を得られていると述べました。

投資家の要望により、大和証券は南アフリカ・ランド(ZAR)建て、ニュージーランド・ドル建て、豪ドル建ての三種類のワクチン債を発売しました。とくに南アフリカ・ランド建て債券の売出総額は31億ZAR(3億1000万米ドル相当)に上り、日本におけるZAR建ての売出債としては過去最大規模のものとなりました。購入者の80%以上は50歳以上、60%以上は女性でした。

5月にはやはり投資家の要望をもとに、三菱UFJ証券が日本の投資家向けに米ドル建ておよび豪ドル建てのIFFImワクチン債を販売し、1億4300万米ドル相当の資金を調達しました。

「世界銀行は35年以上にわたって、日本の資本市場で債券を発行してきました。今回IFFImとともに、日本の投資家の皆様に何百万人もの子ども達の人生を変える機会をご提供できることを嬉しく思っています」と世界銀行のケネス・レイ副総裁兼トレジャラーは述べています。



写真の説明: 大和証券の説明会で投資家にIFFImを紹介するアラン・ギレスピー理事会会長

2009年1月に開催された大和証券、IFFIm、GAVI、世界銀行のワクチン債説明会に参加した投資家の言葉



東京在住のキタノマサハルさん(61歳)は、説明会の内容に感銘を受けたので、ワクチン債の購入を検討したいと述べました。「子どものための慈善事業にはよく協力していますが、これらはみな寄付です。しかしIFFImは、投資の機会を提供してくれます」



4人の子どもの持つアオシマケイコさんは、「子どものための活動に投資できる点が気に入りました。他の銀行が販売している債券では、自分の資金が何に使われるのかを正確に知ることはできませんが、IFFImなら用途がはっきりしています」と述べました。

途上国におけるIFFIm資金の活用状況

最貧国において、GAVIアライアンスは十分に利用されていないワクチンの接種率を高めるための“触媒”の役割を果たしています。

大規模な介入の結果、基本的ワクチンであるDTP3（ジフテリア・百日咳・破傷風3種混合ワクチン）の接種率は80%に近づきました。途上国自身の努力がなければ、これほど目覚ましい成果を上げることはできなかったでしょう。

GAVIはIFFImの資金をもとに、五価ワクチンの供給も開始しました。このワクチンはジフテリア、百日咳、破傷風に加え、B型肝炎とインフルエンザ菌b型（Hib）という致死率の高い疾病から子ども達を守る上で大きな役割を果たしています。

B型肝炎は子どもよりも成人での感染例が多いものの、Hibは生後数カ月の乳児の大きな死因にな

る髄膜炎と肺炎を引き起こします。Hibが原因で死亡する子どもは年間37万人に上ると見られており、一命を取り留めても麻痺、難聴、知的障害、学習障害といった深刻な後遺症が残る場合がほとんどです。

2008年末までに、56のGAVI対象国で4200万人の子ども達が五価ワクチンの接種を受けました。世界保健機関（WHO）によれば、1年間で新たに1400万人の子ども達がワクチンの接種を受けたことになります。

五価ワクチンの供給を支援するための投機的投資には1億9600万米ドルが割り当てられています。その90%はIFFImから供給されます。

GAVIの購買力は、ワクチンメーカーに生産能力の増強を促すという形で、ワクチンの供給を後押ししてきました。これはGAVIの市場形成力の一端を示



ブリアナちゃんに五価ワクチンを打つ地域看護師のシンシア・ヌオー（アクラ、ガーナ）。母親のプリシラ・カーシーさんは次のように述べています。

「普段は仕出しの仕事をしていますが、今日は仕事を抜けて診療所に来ました。仕事を休んだことは気にしていません。わが子の健康のためですから。子どもの健康は何にも替えがたいものです。知り合いには必ず、子どもを診療所に連れていくよう勧めています」

しています。GAVIの支援を得て、いち早く五価ワクチンを導入したウガンダでは、わずか5年間でHibがほぼ根絶されました。それ以前は毎年、Hibによって3万人が重症に陥り、5000人の子ども達が死亡していました。

五価ワクチンは、Hib関連の死亡を90%防ぐものになると期待されています。このワクチンは子ども達の健康を飛躍的に改善するだけでなく、2015年までに子どもの死亡率を3分の1に削減するというミレニアム開発目標の達成にも寄与するものとなるでしょう。

国連がIFFImの経験を高く評価

国連の潘基文事務総長は5月19日、ジュネーブで開催された世界保健総会に出席し、I-8グループ/L.I.F.E. (公平性のための革新的資金調達)の初会合で、成果をあげている革新的な資金調達イニシアティブの例として、IFFImを含む8つのプログラムを挙げました。

潘事務総長は同会合で、「今日の経済危機により、革新的な資金調達の重要性はさらに高まっています」と述べました。この会合の議長は、革新的な開発資金源に関する国連事務総長特別顧問のフィリップ・ドスト・ブラジ氏でした。

潘事務総長はさらに、メキシコのモンテレーで開催された国連開発資金会議に言及し、この会議で得られた重要な所見のひとつは、「ミレニアム開発目標を達成するためには、これまでにない革新的な資金源が必要である」というものだ指摘しました。

潘事務総長は「皆さんの仕事は、もっとも効果的なメカニズムを見つけることです」と述べ、世界の保健・開発課題を解決するための革新的な資金

調達方法の発見を支援していく「個人的意思」を表明しました。

この会合には資金調達の模範的な成功事例として、IFFImを含む8つのイニシアティブが参加しました。これらのイニシアティブは、革新的な資金調達メカニズムの発見に向けた努力が大きく進展していることを示しています。I-8 (innov-eight) という名称は、「革新的な (innovative)」と「8 (eight)」を組み合わせた造語です。

IFFImのアラン・ギレスピー理事会会長は国連欧州本部に集った高官たちに、IFFImは真の官民パートナーシップであり、7つのドナー国が拠出した2億5000万米ドルをもとに、20億米ドルを調達したことを報告しました。

「これは資本市場が持つ力と、投資家の間で、持続可能で確実性の高い社会貢献度の高い投資への関心が高まっていることを示しています」(ギレスピー理事会会長)

IFFImに新しい理事が参加

IFFIm理事会にディディエ・シャピテルとシーン・カーニーが加わりました。

2人は2009年6月1日付けでIFFImの理事に就任しました。新理事の募集にあたっては、世界各地から170件を超える関心表明があり、厳正な選考プロセスを経て両名が選出されました。

ディディエ・シャピテルは2000年から2003年にかけて、国際赤十字・赤新月社連盟 (IFRC) の事務総長を務めました。それ以前はロンドンとパリでJ.P.モルガンのマネージングディレクター

を務め、アフリカ開発銀行や世界銀行との業務を支援してきました。

シーン・カーニーは2008年まで、HSBCインベストメント&グローバル・バンキングの投資銀行部門で最高執行責任者を務め、特に新興市場の取引に関して豊富な経験を有しています。

IFFIm理事会は現在、シャピテルとカーニーのほか、アラン・ギレスピー (会長)、アルンマ・オテ、ジョン・カミングズ、ダヤナ・ジャヤスリヤで構成されています。

Jiji Press > Nikkei > Fuji Sankei Business Eye > TV report NHK > TV Asahi's > Financial Times > Reuters > Agence France Presse > Bloomberg > Time Asia > Forbes magazine > the American Chamber of Commerce Journal > FinancialWeek > Forbes.com > San Diego's Union Tribune > Nature Medicine

IFFImに関するニュース報道

2009年はワクチン債の発行や、革新的な開発資金調達メカニズムとしてのIFFImの役割に国際的な注目が集まり、必然的にIFFImのドナー国にもスポットライトが当たりました。

たとえば英国では、IFFImがHSBCを通して販売した債券にマスコミの関心が集中しました。7人の個人金融ジャーナリストがGAVIとともにシエラレオネを訪れ、IFFImの資金がどのように活用されているのかを現地で取材しました。その結果、タイムズ、テレグラフ、ガーディアン、マネーメールなどに写真付きの記事が掲載されたほか、スカイニュース等のテレビ番組でもIFFImの活動が報じられました。チャンネル・フォーの番組「ランチタイムニュース」にはアラン・ギレスピー理事会会長が生出演し、インタビューに応じました。

ロイター、フィナンシャル・タイムズ、およびそのウェブサイトであるFT.comも、IFFImの話題を継続して取り上げています。FT は英国での起債を最初に報道したメディアですが、ニューヨーク・タイムズと同様に、その後も革新的な保健・開発資金調達メカニズムとしてのIFFImの役割を伝えています。

日本では大和証券による2回目の起債に先立ち、1月にIFFImのギレスピー理事会会長とGAVIのアリス・オルブライト最高財務責任者が日本のジャーナリストと海外メディア (FT、ブルームバーグTV、ロイター) の取材に応じました。その結果、日本をはじめ各国のメディアでワクチン債のニュースが広く報じられました。

IFFIm資金の活用状況を伝える印象的な写真や共感を呼ぶ記事は、引き続き各メディアの読者や視聴者の関心を集めています。

IFFImは資金調達目標を順調に達成

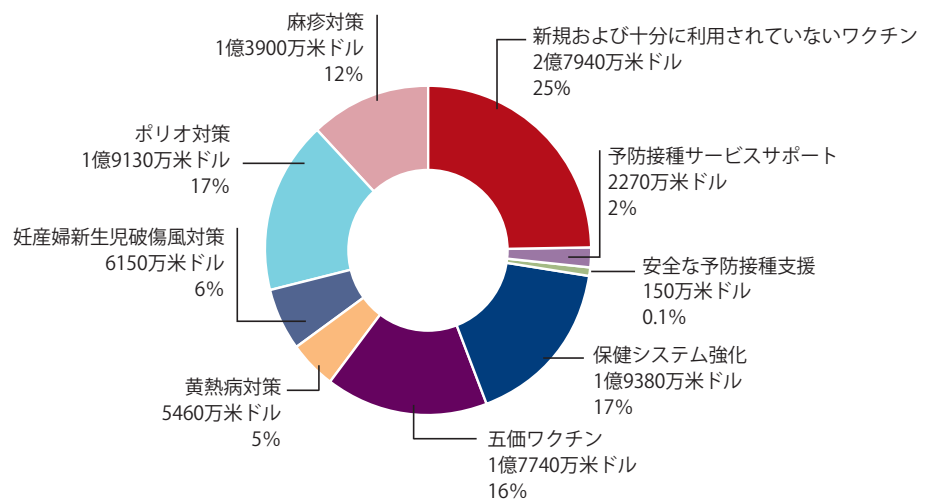
GAVIの活動を支えているのは、長期にわたる計画的な資金調達です。予防接種プログラムを拡大し、長期的な計画を立てるためには、ドナー国による拠出誓約と革新的な資金調達メカニズムが不可欠です。これまでにIFFImが承認したプログラムの総額は、2009年3月31日までの累計で13億米ドルに達しました。このうちの11億米ドル以上はすでに70カ国以上の途上国で、ワクチンの購入や提供を支援するために使われています。

IFFIm資金の使途は大きく二つに分かれます。ひとつはGAVIの「中核」プログラム（新規および十分

に利用されていないワクチン、予防接種支援、安全な予防接種、五価ワクチン）、もうひとつは限定的初期投資（黄熱病ならびにポリオワクチンの備蓄、麻疹対策、妊産婦新生児破傷風対策）です。

2009年のGAVIプログラムの総予算は10億米ドルを超えると見られ、IFFImが調達する資金はほぼすべて、ワクチンプログラム、保健システム強化（HSS）、特定の国に限定されない投資案件に使われる予定です。

2006年－2009年3月のGAVIプログラムに対するIFFIm資金の支出内訳



GAVIアライアンスは、保健サービスを改善し、予防接種の接種率と質を高めることで、最貧国の子どもの健康を増進することを唯一の目的とする革新的な官民パートナーシップです。

GAVIアライアンスには、ユニセフ、世界保健機関、世界銀行、市民社会団体、公衆衛生機関、ドナー国および開発途上国、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団、その他の慈善家、ワクチン業界代表、IFFIm、財界などが参加しており、各パートナーがそれぞれの専門性を発揮しながら協働することで、この分野で前例のない進歩を達成しつつあります。



世界銀行はIFFImの財務マネジャーとして、堅実な方針と基準に基づいてIFFImの財務を管理しています。ここにはIFFImの資金調達戦略の立案と資本市場における実行、格付け機関や投資家へのアウトリーチ、ヘッジ取引、投資管理などが含まれます。また世界銀行はIFFImドナー国と調整を行い、各国の資金誓約と支払いを管理するとともに、GAVIアライアンスを通じた予防接種および保健プログラムへの支出を管理しています。

最新の情報は
www.iff-immunisation.org
をご覧ください。

詳細のお問い合わせ先:

Dan Thomas
dthomas@gavialliance.org
Tel. +41 22 909 6524
Tel. +41 79 251 8581

Rachel Winter Jones
rjones1@worldbank.org
Tel. +33 1 4069 3052